

JIS

プラスチッククリープ特性の試験方法— 第1部：引張クリープ

JIS K 7115 : 1999

(2006 確認)

平成 11 年 10 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによってJIS K 7115 : 1986は改正され、この規格に置き換えられる。

JIS K 7115には、次の附属書がある。

附属書A(参考) ポリマーのクリープにおける物理的エージング効果

附属書B(参考) 参考文献

附属書1(規定) 特殊試験片

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 47. 4. 1 改正：平成 11. 10. 20

官 報 公 示：平成 11. 10. 20

原案作成協力者：日本プラスチック工業連盟

審 議 部 会：日本工業標準調査会 化学部会（部会長 三田 達）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部標準業務課 産業基盤標準化推進室(☎ 100-8921 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

プラスチック—クリープ特性の 試験方法—

K 7115 : 1999

第1部：引張クリープ

Plastics—Determination of creep behaviour—
Part 1 : Tensile creep

序文 この規格は、1993年に第1版として発行されたISO 899-1, Plastics—Determination of creep behaviour—Part 1 : Tensile creepを元に作成した日本工業規格であり、**附属書1**を除いて、技術的内容及び規格票の様式を変更することなく作成している。

附属書1には、従来、日本工業規格で規定していた試験片を規定した。

なお、この規格で側線及び下線(点線)を施してある箇所は、原国際規格にはない事項である。

1. 適用範囲

1.1 この規格は、前処理、温度及び湿度が規定された条件のもとで、標準試験片によるプラスチックの引張クリープの試験方法について規定する。

1.2 この試験方法は、非強化の硬質及び半硬質プラスチック並びに充てん材入り及び纖維強化プラスチック材料(JIS K 6900-1994参照)で、ダンベル形の試験片形状に直接成形したもの又はシート若しくは成形品から切削加工されたものに適している。

1.3 この試験方法は設計及び研究開発に対してデータを提供するものである。

1.4 引張クリープは、試験片の調製及び寸法並びに試験環境の差で大きく変化する可能性がある。試験片の熱履歴もまたクリープ特性に深く影響をもたらす可能性がある(附属書A参照)。したがって、正確な相対的結果が要求されるときは、これらの要因を注意深く制御しなければならない。

1.5 引張クリープ特性を設計の目的に使用する場合には、応力、時間及び環境条件の広範囲にわたって試験を行うことが望ましい。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、発効年又は発行年を付記してあるものは、記載の年の版だけがこの規格の規定を構成するものであって、その後の改正版・追補には適用しない。

JIS K 6900-1994 プラスチック—用語

備考 ISO 472 : 1988 Plastics—Vocabularyが、この規格と同等である。

JIS K 7161-1994 プラスチック—引張特性の試験方法 第1部：通則

備考 ISO 527-1 : 1993 Plastics—Determination of tensile properties—Part 1 : General principlesが、この規格と同等である。

JIS K 7162-1994 プラスチック—引張特性の試験方法 第2部：型成形、押出成形及び注型プラスチックの試験条件

備考 ISO 527-2 : 1993 Plastics—Determination of tensile properties—Part 2 : Test conditions for moulding and